

ピックルボール



1 概要

ピックルボールは 1965 年にアメリカのシアトルで生まれたテニス型のスポーツであり、木製のラケットと中空穴あきのプラスチックボールを使用するため、力任せのプレーよりもショット・作戦などが楽しめる手頃なレクリエーション・ゲームです。

2 用具

木製ラケット（卓球用より一回り大きい）

ピックルボール用プラスチックボール（直径 8cm ほどの中空穴あきボール）

ネット・支柱

3 コート

右図参照

4 人数

シングルス、ダブルス

5 ゲームの進め方

(1) ダブルス

①サーブ権の決め方

コイントスをするか、どちらかがフォールとするまでボールを打ち合う。トスからリーに勝ったチームがサーブ権を取るか否かを決定する。

②得点と勝敗

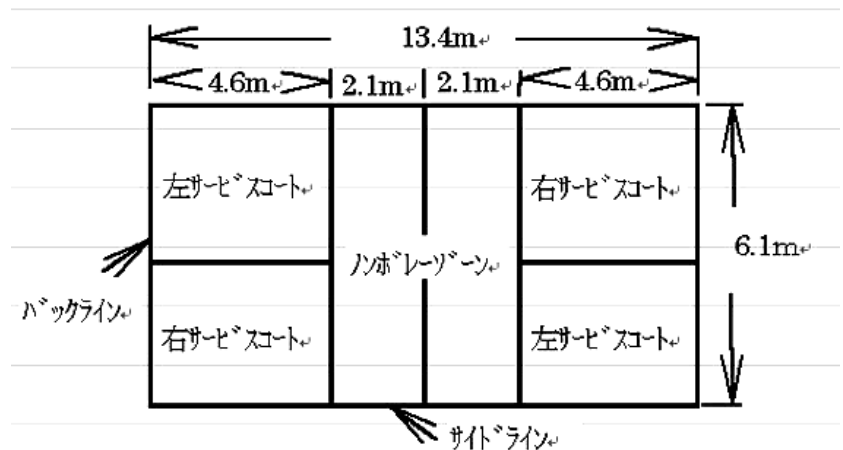
サーブ権のあるときのみ得点することができる。ライン上に落ちたボールはセーフである。サーブをしているプレイヤーは自チームがフォルトするまでサーブを続ける。1 ゲームの勝敗は 11 点先取で決まる。ただし、2 点リードしていなければならない。

③1 試合のゲーム数

1 試合は普通 3 ゲーム行い、2 ゲーム先取したチームがその試合の勝者となる。

④サービス

- ・サーバーはバックラインをまたいでサーブしなければならない。
- ・サーブはアンダーハンドで行う。ラケットはウェストより下で振らなければならない。
- ・サーバーはボールをバウンドさせずにサーブしなければならない。
- ・サーブはコートを対角線に横切ってノンボレーゾーンを越え、相手のサービスコートに入らなければならない。
- ・サーブは一度だけ行うことができる。ただし、ボールがネットに触れて相手のサービス



コートに落ちた場合はもう一度サーブすることができる。

- ・レシーブチームがサーブ権を得たときは、常に右側にいるプレーヤーからプレーをスタートする。

⑤コートチェンジ

- ・ゲーム開始時、及び一方のチームがサーブ権を得たときの最初のサーブは常に右側のサービスコートから行う。

- ・レシーブチームがフォールとした場合、サービスチームが1点獲得する。その次のサーブは同じ人がコートを替えて（右または左に移動）再びサーブする。サービスチームがフォールとした場合は、サーブを行った人のパートナーがサーブを行う。このときコートはそのままである。つまり、得点をあげた時のみコートチェンジが生じる。ただし、ゲーム開始時のみサーブ権をもつチームは一人しかサーブすることができない。

- ・ゲームの初めにサーブしたプレーヤーは、そのゲームでのポイントが0か偶数の時右サービスコートでサーブまたはレシーブし、奇数の時は左サービスコートで行う。パートナーはこの逆になる。

⑥ボレー

- ・ボレーとは、ボールがバウンドする前に空中にあるボールを打つことである。

- ・ボレーはノンボレーゾーンの後ろで行わなければならない。ノンボレーゾーンのラインをまたいでボレーした場合もフォールとである。

⑦ダブルバウンスルール

- ・サービス直後の1ラリーは、ボールをバウンドさせてから打たなければならない。すなわち、レシーブチームはサーブされたボールを、サービスチームはリターンされたボールを、一度バウンドさせてから打たなければならない。これをダブルバウンスルールという。

⑧フォールト（反則）

- ・コートの外に出たボールを打ったとき。

- ・ノンボレーゾーンに足を踏み入れてボレーしたとき。

- ・両サイドで一度ずつバウンドさせる前にボールをボレーしたとき。（ダブルバウンスルール参照）

(2) シングルスの場合

次の場合を除いてダブルスのルールがすべて適用される。

- ・シングルスの場合は、自分の得点が0か奇数の時、右側のコートからサーブする。それ以外の場合は、左側のコートからサーブする。

